

東アジアの域内貿易は1兆ドル規模へ

ITI財別国際貿易マトリックスからみた東アジアの域内貿易

増田 耕太郎 *Kotaro Masuda*

(財)国際貿易投資研究所 研究主幹

ITI 財別国際貿易マトリックス(2004年版)(以下「貿易マトリックス」という)によると、2003年の東アジア域内の貿易額は約9,400億ドルで、前年に比べ約24.1%の増加であった。集計可能な主要43国・地域の貿易統計をもとに試算した世界貿易額(7兆2,918億ドル)の約12.9%を占めている。EU(15カ国)の域内貿易額は約1兆7,493億ドルで、世界貿易額の約24.6%を占め、東アジアの域内貿易額の約1.9倍の規模である。NAFTA 域内貿易額は8,521億ドル(世界貿易に占める割合は約8.9%)で、東アジア域内貿易額の約9割に相当し、東アジア域内貿易の方が大きい。東アジアの域内貿易は引き続き拡大傾向にあることから、1兆ドルを超えるのは間近である。

本稿では、ITI 財別国際貿易マトリ

ックスの2003年データをもとに、東アジアの域内貿易の状況を取りまとめた。

最初に、1)世界貿易における東アジア貿易の地位、次いで、2)東アジアの域内貿易の状況、3)東アジア域内貿易拡大の持続性について考察する。

(注)本稿での「東アジア」は、日本、韓国、台湾、中国、香港の5カ国・地域(「北アジア」と、シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシアの5カ国(「ASEAN5カ国」、以下「ASEAN(5)」)を合わせた10の国と地域を指している。また、ITI 財別国際貿易マトリックスの概略は、本稿の末尾で紹介している。(177ページ)

1. 東アジアの対世界貿易

東アジアの貿易をITI 財別国際貿易マトリックスからみると、次の特徴が

ある。

- 1) 2003 年における東アジアの輸出総額は 1 兆 8,991 億ドルで、世界貿易額の約 26.0% を占めている（本稿末尾の別表 1）。一方、輸入総額は 1 兆 5,216 億ドルで、世界貿易に占める割合は 20.9% である（本稿末尾の別表 2）。
- 2) 1999 年と比べると、過去 4 年間に輸出は 36.1% の増加、輸入は 44.4% の増加で、輸入の伸びの方が大きい。同期間の世界貿易額の伸びは 31.1% なので、東アジアの貿易は輸出入ともに世界貿易の伸びを上回っている。
- 3) 機械機器は最大の貿易品目で、輸出は東アジアの輸出総額の 58.1%、輸入は東アジアの輸入総額の 47.4% を占め、東アジアの貿易は輸出も輸入も機械機器が中心である。東アジアの機械機器貿易は同品目の世界貿易に占める割合が高く、輸出は 34.0%、輸入は 22.2% である。
- 4) 機械機器のうちでは電気機器（HS85 類）が、過去 4 年間で輸出額も輸入額も最も大きく増加している。過去 4 年間に東アジアからの輸出は 1,494 億ドルも増え、世

界貿易に占める割合が 42.8% から 48.9% に高まっている。同様に輸入も 1,332 億ドルの増加で、世界貿易に占める割合は 29.2% から 36.5% に高まっている。

- 5) IT 関連機器（部品を含む）は、東アジア地域からの輸出の 33.6%、輸入の 28.8% を占める。そのうち、IT 関連部品は輸出の 20.5%、輸入の 21.1% を占め、東アジアの貿易の約 5 分の 1 を占める。また、東アジアからの IT 関連部品の輸出は、同品目の世界貿易に占める割合が輸出で 58.9%、輸入で 48.5% と高い。
- 6) 東アジア地域からの輸出について、世界の主要市場別に占有率（輸入比率）をとりまとめたのが表 1 である。各市場における東アジアからの輸入比率の主な特徴を列記する。
世界全体でみると東アジアからの輸入比率が 50% を超える品目が少なくない。音響機器の 71.8% をトップに、半導体・電子管の 64.8%、映像機器（63.1%）……と続く。音響・映像機器などの民生用電気機器と、電子部品（62.8%）、コンピュータ部品

表1 東アジア地域からの輸入比率～市場別財別（2003年）

	WORLD	東アジア域内				東アジア域外	
		EAST ASIA(10)	Japan	China	ASEAN (10)	U.S.A	EU(15)
全品目	26.04	58.87	44.07	63.50	62.52	30.67	9.81
音響機器	71.79	87.77	89.93	72.17	91.55	89.88	56.18
(半導体・電子管)	64.81	85.82	86.71	90.94	77.63	54.98	32.60
映像機器	63.10	94.11	94.97	92.84	94.63	68.19	43.15
(電子部品類)	62.82	74.75	79.47	86.52	64.31	65.50	34.33
(集積回路)	62.38	72.64	77.69	85.36	62.10	67.74	34.72
(コンピュータ部品類)	59.61	84.89	75.23	92.33	82.37	69.58	34.46
(IT関連部品類)	58.87	79.35	79.48	88.03	71.48	60.56	30.93
コンピュータ関連機器	54.52	84.57	78.59	90.76	80.29	70.14	32.51
その他電子部品	53.13	85.45	82.24	87.37	82.91	49.69	25.12
【IT関連機器・部品】	52.35	77.94	75.14	85.05	71.30	61.15	28.44
(事務用機器)	51.07	93.80	95.06	97.06	85.49	70.43	24.41
(コンピュータ&周辺機器)	50.88	84.14	80.57	87.83	74.85	70.43	31.52
電気機器	48.87	77.46	77.78	83.16	70.95	53.42	23.38
(合成繊維・織物)	48.12	87.55	69.68	91.34	89.90	34.27	14.21
(IT関連機器～最終財)	44.57	73.92	69.38	75.83	70.50	61.56	26.67
液化天然ガス	38.95	57.35	59.32	100.00	87.37	0.03	0.00
繊維品	38.44	80.36	80.39	81.54	80.56	35.24	13.97
(衣類)	37.60	85.76	84.95	91.47	80.63	36.06	16.52
通信機器	37.04	69.91	55.74	70.66	74.21	55.05	18.57
雑製品	36.54	72.23	67.86	72.56	75.68	56.28	17.77
機械機器	33.96	69.56	57.27	72.50	68.38	41.45	15.16
一般機械	32.88	68.27	60.73	66.26	69.28	46.36	16.41
精密機器	29.79	59.84	34.54	76.05	56.19	32.15	12.90
(プラスチック・ゴム)	27.55	73.94	63.44	78.33	75.06	37.47	7.53
鉄鋼	23.69	62.78	68.78	56.71	66.34	30.80	4.65
(鉄鋼の一次製品)	23.04	60.42	62.18	56.05	63.07	11.58	1.81
(乗用車)	22.60	39.77	2.90	59.10	75.73	35.59	9.57
輸送機器	19.95	42.16	17.70	40.81	60.03	29.98	8.52
化学品	18.65	58.07	32.25	70.11	62.25	20.87	5.71
(自動車部品)	17.59	58.36	35.04	48.53	86.22	27.82	5.42
(加工食品)	11.05	45.01	44.55	33.16	51.49	13.44	2.17
(穀物)	10.41	38.19	34.24	40.14	45.37	11.50	1.96
食料品	10.41	38.19	34.24	40.14	45.37	11.50	1.96
石油&同製品	8.33	21.74	15.52	22.87	35.42	1.51	0.35
原油	3.28	8.09	7.21	8.77	11.45	0.71	0.00
医薬品	2.73	14.12	3.90	35.83	21.98	6.30	0.85

(出所) ITI 財別国際貿易マトリックスより作成

(59.6%) などが高いシェアを持つ。一方、医薬品(2.7%)、原油(3.3%)などの石油 & 石油製品(8.3%)は10%以下である。米国市場における東アジアからの輸入比率は、前項の特徴をより鮮明に示している。東アジアからの輸入が全体の50%を超えるものが多数あり、音響機器(89.9%)、コンピュータ機器(70.4%)、事務用機器(70.4%)など、機械機器は全体でも内訳の品目別にみても、ほとんどが50%を超えている。例外は輸送機器(30.0%)とその細目の乗用車(35.6%)自動車部品(27.8%)などである。EU(15カ国)市場における東アジア商品の輸入比率は、全体で9.8%である。40%を超えるものに音響機器(56.2%)、映像機器(43.2%)がある。それに続く30%台に半導体・電子管(32.6%)、集積回路(34.7%)、コンピュータ部品(34.5%)などの部品類である。日本の東アジアからの輸入比率は44.1%である。事務用機器(95.1%)、映像機器(94.1%)、コンピュータ部品(84.9%)な

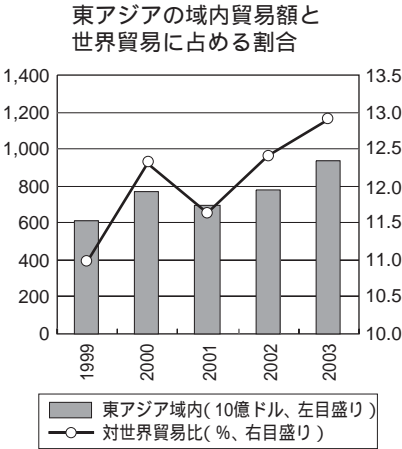
ど圧倒的なシェアを持つ品目と、乗用車(2.9%)、医薬品(3.9%)、原油(7.2%)と10%を下回る品目に大別される。自動車部品(35.0%)、化学品(32.3%)、食料品(34.4%)は、その中間にある。

中国の東アジアからの輸入比率は63.5%を占める。ASEAN(10)も62.5%であり、どちらも6割を超えている。そのため、東アジアからの輸入品比率が高い品目が多い中で、全体の輸入比率を下回るものに、中国では原油(8.8%)、自動車部品(48.5%)、鉄鋼(56.7%)などがある。

2. 東アジアの域内貿易

東アジアの貿易の拡大にともない、東アジアの域内貿易が活発化し、結果として世界貿易全体に占める域内貿易額の割合は高まっている。次ページの図は、最近5年間の東アジア域内貿易額と対世界貿易に占める割合である。世界貿易に占める割合が1999年の11.0%から2003年には12.9%になった。NAFTA、EU(15カ国)の域内貿易が占める割合が低下する中

で、東アジア域内貿易の拡大が目立っている。



(出所) ITI 財別国際貿易マトリックスより作成 (以下同じ)

表 2 世界貿易額に占める各地域経済圏の域内貿易比率

(単位：%)

	1999年	2003年
東アジア(10カ国・地域)	11.0	12.9
EU(15カ国)	25.6	24.6
NAFTA	10.5	8.9

世界貿易に占める東アジア域内貿易の割合を財別にまとめたものが本稿末尾の別表 3 である。域内貿易の割合が高いものは IT 関連機器の部品 (41.3%) とその構成品目に集中している。例えば、半導体・電子管

(50.5%)、集積回路 (49.3%) で、電子部品 (49.5%) 全体でも 5 割近い。コンピュータ部品 (34.7%) などにもそれに該当する。一方、域内貿易比率が低いものは、医薬品 (0.9%)、原油 (2.4%)、食料品 (6.1%) などである。

東アジア域内貿易総額が世界貿易総額に占める割合 (12.9%)、東アジアからの域内向け輸出比率 (49.5%)、東アジアの域内からの輸入比率 (58.9%) を基準に、それらより高い品目、低い品目に分けたのが表 3 (「東アジアの域内向け輸出シェア」、表 4 (「東アジアの域内からの輸入シェア」) である。

輸入額からみると、世界貿易に占める東アジア域内比率と東アジア貿易における域内比率が、どちらも高いか、あるいはどちらも低いかで 2 分化している。それに対して輸出額からみた場合は、東アジア貿易における域内比率が総額 (平均) に近いところに集中する傾向がみられ、輸入に比べてバラツキが小さいという特徴がある。

そのほか、主な特徴は次のとおりである。

- 1) 世界貿易の中で占める域内貿易比率が高く東アジアの中での貿易も

表3 東アジアの域内向け輸出シェア

		東アジアにおける域内向け輸出比率（域内輸出比率）				
		75%以上	50～75%	49.5	25～50%	25%未満
		高位	中高位		中低位	低位
世界貿易における東アジア域内貿易の割合	25%以上	電子部品 半導体・電子管 集積回路	電気機器 コンピュータ部品 IT機器〔合計〕 IT機器〔部品〕 電気部品		IT機器（最終財） コンピュータ（合計） コンピュータ（完成品・周辺機器）	
	13～25%		精密機器 ゴム・プラスチック 合成繊維織物 鉄鋼 鉄鋼（一次製品） 映像機器		機械機器 一般機械 繊維 衣類 事務用機械 通信機器	雑製品 音響機器
	12.9					
	7～13%		動植物性油脂 鉱物性燃料		化学品	
	7%未満		食料品 穀物 加工食品 原油			輸送機器 乗用車 自動車部品 医薬品

（注） は総額を示す

（出所）ITI 財別国際貿易マトリックスより作成（以下同じ）

大きい品目は、電気・電子産業、コンピュータ関連産業に用いる部品類が多い。輸出からみても輸入からみても同様である。特に、集積回路、半導体・電子管、電気部品、コンピュータ部品などが高いグループにある。

2) 一方、世界貿易の中で域内貿易が占める割合が低く、東アジアの輸出の中で域内向けが小さいもの

に、輸送機器がある。乗用車、自動車部品と個別にみても、他の品目に比べるとシェアは低い。

- 3) 域内貿易比率が50%以上と高く、輸出と輸入の間で差が小さい品目をあげると、集積回路（輸出79.0%、輸入72.6%）、半導体・電子管（輸出77.9%、輸入85.8%）
- 4) 域内貿易比率が輸出と輸入で大きく異なる品目に映像機器、音響機

表 4 東アジアの域内からの輸入シェア

		東アジアにおける域内からの輸入比率（域内輸入比率）				
		80% 以上	80% ~ 60%	58.9	60 ~ 30%	30%未滿
		高位	中高位		中低位	低位
世界貿易における東アジア域内貿易の割合	高位 25%以上	コンピュータ（合計） コンピュータ（部品） コンピュータ（完成品・周辺機器） 半導体・電子管 電気部品	電気機器 IT 機器（合計） IT 機器（部品） IT 機器（最終財） 電子部品 集積回路			
	中高位 13% 25%	繊維品 合成繊維織物 衣類 事務用機器 映像機器 音響機器	機械機器 一般機械 通信機器 ゴム・プラスチック 雑製品 鉄鋼 鉄鋼（一次製品）		精密機器	
	12.9					
	中低位 7% 13%				化学品 動植物性油脂	鉱物性燃料
	低位 7%未滿				輸送機器 乗用車 自動車部品 食料品 穀物 加工食品	原油 医薬品

（注） は総額を示す

（出所） ITI 財別国際貿易マトリックスより作成（以下同じ）

器がある。例えば、映像機器の場合、東アジアからの域内輸出比率は 28.0% であるのに対し、域内輸入比率は 94.1% である。

これらは東アジアが世界の生産・輸出拠点であり、競争力が高いから、輸入では域内取引で圧倒的な

シェアを持ち、輸出からみると域内向けより域外向けが多いから相対的に域内向けの輸出比率が低下する。

一方、域内からの輸入の割合が低く、域内向け輸出が高い品目に、原油、液化天然ガスなどの鉱物性

燃料がある。原油は域内からの輸入比率が8.1%、鉱物性燃料全体でも26.0%である。

5) 域内輸入比率と域内輸出比率の差をとると、前項のように大差があるものと均衡に近いものに分かれる。両者の比率が30.0パーセント・ポイント以上あるもののうち、域内からの輸入比率が大きいものの例として、前述の音響機器、映像機器以外では、衣類(域内輸入比率85.6%)、合成繊維&織物(同87.6%)、鉄鋼の一次製品(同71.2%)、事務用機器(同93.8%)、コンピュータ&周辺装置(同84.1%)、コンピュータ部品(同93.8%)、乗用車(同39.8%)などがある。

6) 域内からの輸入比率と域内向け輸出比率が類似している品目には、精密機器、半導体・電子管、集積回路などがある。

3. 一体化が進むASEANと北アジア

東アジアの貿易をみると、ASEANと北アジアが一体化している姿が浮かび上がる。

ASEAN5カ国の輸出総額は約4,218億ドル。そのうち、東アジア域内向けは約55.3%を占める。ASEAN(5)向けだけであると約21.5%で、日本や中国などの北アジア向けの方が大きい。ASEAN(5)域内向けの方が大きいのは、コンピュータ部品、電気・電子部品などごく一部である。

輸入についても同様である。ASEAN(5)の輸入総額(約3,502億ドル)のうち、ASEAN(5)域内からの輸入割合は25.7%で、東アジア域内であると60.78%に高まる。東アジア域内での輸入割合が高いのは、コンピュータ部品(84.0%)、自動車部品(84.3%)、合成繊維・同織物(85.5%)などで、8割を超えるものもある。ASEAN(5)域内に限ると、コンピュータ部品は約49.1%と高いものの、自動車部品は16.0%、合成繊維織物は21.5%にすぎず、北アジアからの輸入割合が高い。ASEAN地域より北アジアからの輸入が多い品目が少なく、ASEAN(5)の貿易は、域内貿易の拡大以上に北アジアとの取引が拡大していることがわかる。

なお、東アジア域内からの輸入比率が小さい品目は、医薬品・医療用品(約20.0%)、原油(10.0%)などである。

ASEAN 貿易の内訳を IT 関連部品を例にとってみると、次の特徴がある。

- 1) ASEAN5 カ国の ASEAN5 カ国向け輸出の割合は 29.7% にとどまるが、東アジア向けに拡大すると 68.7% に高まる。IT 関連部品の輸出は 7 割近くが東アジアで消費されており、米国向け、EU 向けはいずれも 13% 台である。
- 2) 国別にみると、インドネシアの ASEAN 向け輸出比率が 52.5 % と最も高い。そのうち、シンガポール向けが約 8 割に相当する 41.4% を占める。次いではマレーシア (34.5%) で、そのうちシンガポール向けが約 8 割の 26.4 % である。
- 3) シンガポール向けに輸出されているうちの相当量が、シンガポールの再輸出として中国や日本などの東アジア全域に出荷されている。シンガポールの再輸出先の 1 位はマレーシアで全体の 25.6% を占めている。ASEAN5 カ国向けでは 32.0% にとどまるが、東アジア域内に拡大すると 72.9 % にまで高まる。
- 4) このことは、香港の再輸出と同様に、シンガポー

ルの再輸出機能が東アジア域内貿易を過大にする要因となっているとともに、東アジア貿易の拡大を支える役割を担っていることを示す。

表 5 ASEAN 諸国における IT 部品類の地域別シェアと輸出額
(単位：%、100 万ドル)

	ASEAN(5)	東アジア(10)	輸出額
ASEAN(5)	29.70	68.66	121,329
Indonesia	52.54	76.48	3,839
Malaysia	34.47	67.44	31,864
Philippines	23.00	70.42	19,058
Singapore	28.35	67.67	52,659
(再輸出 t)	32.00	72.86	31,142
Thailand	26.74	70.64	13,910

ASEAN5 カ国の輸入についても同様なことが言える。

- 5) ASEAN5 カ国の IT 関連部品の輸入先は、ASEAN 域内が 32.4% であるが、東アジアに拡大すると 71.2% にまで高まる。(表 6 参照)

表 6 2003 年における ASEAN 諸国の IT 関連部品輸入
(単位：%、100 万ドル)

	ASEAN(5)	東アジア(10)	うち日本	中国 + 香港
ASEAN(5)	32.41	71.20	14.51	12.65
Indonesia	14.79	80.19	25.66	18.50
Malaysia	39.49	68.05	9.24	10.35
Philippines	13.96	58.91	21.48	10.09
Singapore	34.77	74.23	11.99	14.33
Thailand	33.56	81.08	23.52	14.60

4. 国境を越えた産業内貿易・企業間貿易を拡大させるための課題

貿易マトリックスから、東アジアの域内貿易は機械機器部品、鉄鋼一次製品、合成繊維&織物、ゴム・プラスチックなどの中間工業用原材料分野（「中間財」と呼ぶ）における貿易が活発に行われ、拡大している様子がうかがえる。

国境を越えた中間財の貿易が活発に行われているのは、中間財の需要家と供給者が国境を越えて立地している。同一産業内（同一企業内を含む）あるいは異業種間で国境を越えた取引が広がっている、ことを示している。

国境を越えた中間財貿易が今後も拡大していくには、次の点が重要であるし、拡大させるための課題でもある。

- 1) 企業のグローバル戦略のもとで、最適地生産・最適地供給・最適地調達などを目指すことにより、企業の競争力が高まるとの認識が広がる（本号の五味論文参照）
- 2) 国境を越えた企業立地が合理的であることなど、企業立地の優位性が発揮できる

3) 国境を越えた中間財の取引を容易に行えるビジネス環境が整備されている

4) 国境を越えた中間財の取引を行うためのコストの軽減、削減が見込まれる

そのための主な課題として次の点があげられる。

1) 経済統合の進展

東アジア域内における自由貿易協定（FTA）、経済連携協定（EPA）の進展が域内貿易を活発化させる大きな原動力になることは言うまでもない。

2) 通関業務の簡素化、迅速化

FTA・EPA締結に向けての取り組みに加え、通関業務の負担軽減や迅速な通関を容易にする方策などを積極的に進めていく。各国が進めている通関業務の電子化、共通システム化の推進もスムーズに通関できる促進要因となる。

3) 「物留」からシームレスの「物流」へ

国境を越える工程間分業、産業間分業を進めるポイントの一つが、国境を越えた内外一貫の淀みない物流システムである。単にモノを動かすのではな

く、物流の「壁」を無くし、シームレスで効率的な物流ネットワークを構築できるかが決め手になりそうだ。

例えば、中国に進出した日系企業が、加工貿易を主体とした「華南」地域から国内販売も視野に入れた「華東」地域へ、さらに内陸部へと事業展開を進めるにつれ、東アジアの各地域を結ぶ物流システムの良否が事業の成否につながりかねない。従来にもまして国内外一貫した物流システムの構築を図る。高速化を進める、多頻度と正確な定時制の集荷・配送を図る、物流コストの削減、などが課題であろう。

最終製品の消費地までに多くの国境を越えるとなると、取引先との関係、ロジスティクス、物流も含めた情報技術を活用した SCM (サプライチェーン・マネジメント) をどう築くのが重要になる。

4) 「最強」の調達部門への取り組み

国境を越えた調達をいかに行うのが、取引先の開拓や新しい部品・材料の発掘などでは調達部門が成否を左右しそうである。特に、短いプロダクトサイクルに対応した調達を行えることが重要になる。

国境を越える産業内分業が進む IT 関連機器を例にとれば、主力部品、基幹部品は、普及・量産効果で価格は下落し、数カ月という早いサイクルでより高機能の部品が市場に投入されている。このため、在庫リスクを回避しつつ部品の価格低下をすぐに販売価格に反映させるために製品在庫を持たない企業、新たに生まれた最新部品を「現時点での相場で利用できる」企業が最も有利である。こうした動きは、IT 関連分野に限らず、アパレルや他の業種にも及んでいくことが見込まれる。

【参考】東アジアにおける域内貿易額の統計上の問題点

東アジア各国・地域の東アジアとの貿易額の合計を東アジア域内貿易とする場合の問題点の一つは、各国の貿易額に再輸出と再輸入が含まれていることである。

再輸出入額の一部に東アジア域内産品が含まれている場合には、2重、3重の重複した集計になる。特に、香港とシンガポールの再輸出額、中国の対「中国」輸入額はその規模が大きい(注)。

域内貿易額の集計をする場合の主な

問題は次の4点である。

(1) 香港・シンガポールの再輸出

再輸出額が大きいのは、香港とシンガポールである。両国とも再輸出の割合が高く、再輸出の中に東アジア域内の生産品が含まれていることに留意する必要がある。

香港の再輸出が全体の輸出に占める割合は9割を超え、その額は2,094億ドルである。その6割が中国を中心とした東アジア域内向けである。また、香港の再輸出品には日本や台湾、韓国などで生産した商品が含まれている。このため、日本で生産した液晶表示装置を香港経由で中国に出荷する場合は、日本の香港向け輸出、香港の輸入、香港の対中国向け再輸出、

中国の輸入（原産国：日本）と4度統計に計上されることになる。なお、香港の再輸出統計は、再輸出先に加えて当該品目の原産地を明らかにしている。

一方、シンガポールの再輸出はシンガポール全体の輸出額の約45%を占める645億ドルである。そのうちの約63%がマレーシア、中国+香港向けを主とする東アジア域内に出荷されている。再輸出品にはマレーシア、インドネシアなどの東アジア域内の生

産品が相当量含まれている可能性がある。

したがって、例えばマレーシアで生産された半導体がマレーシアシンガポール香港中国のルートで出荷されている場合を想定すると、各国の貿易統計には、マレーシアの対シンガポール輸出、シンガポールの輸入、シンガポールの香港向け再輸出、香港の輸入、香港の対中国向け再輸出、中国の輸入（原産国：マレーシア）として各国の貿易統計に計上される。

2003年における香港とシンガポールの再輸出規模と再輸出先

(単位：100万ドル、%)

	香港	シンガポール
総輸出額	229,010	144,325
再輸出額	209,402	64,502
(再輸出比率)	91.44	44.69
再輸出先のシェア		
東アジア	59.19	62.65
日本	5.60	5.35
中国+香港	43.38	16.95
ASEAN(5)	5.42	29.59
米国	17.51	10.66
EU	13.40	10.63

(出所) ITI 財別貿易マトリックスより作成

(2) 中国の対「中国」輸入

中国の輸入統計には、輸入相手先に

「中国」があり、その輸入額は中国の総輸入額の約 6.1% に相当する 251 億ドルである。この大部分は香港等に輸出した商品が再輸入されている可能性が高いので、東アジアの域内貿易額を大きくみせる要因になる。2004 年 1 ~ 6 月期は 6.46% (前年同期比 67.6% 増) と中国の輸入全体の伸びより大きく、対「中国」輸入比率は高まる傾向が続いている。

2003 年における中国の対「中国」貿易額
(単位: 100 万ドル、%)

	輸出額	輸入額
総額 (100 万ドル)	478,472	413,096
うち、対「中国」	1,284	25,111
総額に占める割合 (%)	0.29	6.08

(出所) 中国貿易統計

(3) 日本の再輸出

日本の輸出に占める再輸出額が総輸出額の約 4 % を占め、東アジア向けは 98 億ドル規模である。再輸出品は輸入された外国産品が 1 年以内に「変形加工」されずに外国に出荷されるものを指す。このため、東アジア向けに再輸出した貨物の中に東アジア原産の貨物が含まれている可能性がある。しかし、統計では品目の明細や原

産国を明らかにされていない。なお、2004 年における再輸出額は下表のとおりである。

2004 年における日本の輸出に占める再輸出額と再輸出先

(単位: 100 万ドル、%)

	再輸出額 (100 万ドル)	構成比 (%)
総輸出額	471,913	
再輸出額	19,263	
再輸出が占める割合 (%)	4.08	
地域別・国別内訳		
米国	4,909	25.5
東アジア	9,808	50.9
中国 + 香港	4,113	21.4
ASEAN(5)	3,568	18.5

(出所) 日本貿易統計をもとに作成

(4) シンガポールの対インドネシア貿易

シンガポールの貿易統計は、対インドネシア貿易額を除外しているから、シンガポールの統計からは対インドネシア貿易の実態を知ることができな

インドネシアの対シンガポール貿易
(2003 年)

	輸出額	輸入額
総額 (100 万ドル)	61,058	32,551
うち、対シンガポール	5,400	4,155
総額に占める割合 (%)	8.8	12.8

(出所) インドネシア貿易統計

い。また、その分だけ実際の貿易規模より過小になっている。それを補うには、インドネシアの対シンガポール貿易額を用いる。2003年のインドネシア側からみたシンガポール・インドネシア間の貿易額は約96億ドル(往復)

である。(前ページ下端の表参照)

(注)香港の再輸出については『香港の再輸出と中国貿易』(本誌49号) 中国の対「中国」輸入については『中国の対「中国」輸入と華南の生産品』(本誌53号)を参照

【ITI財別国際貿易マトリックス(2004年版)について】

本稿で使用したデータは、国際貿易投資研究所が作成した「ITI財別国際貿易マトリックス2004年版」の掲載データを使用している。2004年版では、最新時点(2003年)までの表を作成する、最新データが活用できる43カ国・地域の貿易統計を活用する、対象品目数は49品目、貿易マトリックスの製表に加え、「2国間貿易ランキング表」などの付属表を作成する、中東地域、拡大EUなど特定対象国・地域に焦点をあてた「特定地域」マトリックスを作成する、などの内容の充実を図っている。その結果は「ITI財別国際貿易マトリックス2004年版」および「同付属表」にとりまとめる予定である。

2004年版の作成は所内にプロジェクト・チームを編成。全体のとりまとめを増田、貿易マトリックスの表作成を田辺敦子、付属表等の関連表を原靖子が担当した。

なお、本誌巻末統計欄に、本誌のサイズに合わせた小型の「東アジアに焦点をあてた貿易マトリックス」と、二国間貿易ランキング表の一部を掲載している。

別表1 東アジアの輸出額と世界貿易に占める割合

		2003年輸出〔100万ドル、%〕			東アジア貿易の変化	
		東アジア (合計)	品目別 構成比	世界貿易に占 めるシェア	増減額 (99-03)	シェアの変化 (%ポイント)
総額		1,899,080	100.0	26.04	503,553	0.95
輸送機器	機械機器	1,103,992	58.1	33.96	306,353	3.25
	一般機械	345,104	18.2	32.88	93,524	3.65
	コンピュータ機器	197,857	10.4	54.52	51,303	7.98
	同製品・周辺機器	107,596	5.7	50.88	29,138	8.04
	同部品・付属品	90,261	4.8	59.61	22,165	7.91
	電気機器	497,653	26.2	48.87	149,353	6.10
	電子部品(半導体等を含む)	183,220	9.6	62.82	38,908	3.67
	半導体・電子管	34,116	1.8	64.81	3,544	1.25
	集積回路	149,104	7.9	62.38	35,364	4.31
	その他の電気・電子部品	116,541	6.1	53.13	38,927	7.64
	輸送機器	185,097	9.7	19.95	47,732	1.09
	乗用車	89,043	4.7	22.60	23,010	0.26
	自動車部品	34,669	1.8	17.59	11,030	2.36
	精密機器	76,139	4.0	29.79	15,745	-1.33
IT関連	IT関連機器	637,701	33.6	52.35	183,006	6.76
	IT関連製品(最終財)	247,678	13.0	44.57	83,006	8.06
	IT関連製品(部分品・付属品)	390,023	20.5	58.87	100,000	5.79
	事務用機器	7,235	0.4	51.07	-3,895	-9.69
	通信機器	53,486	2.8	37.04	26,369	13.98
	映像機器	51,754	2.7	63.10	23,858	6.45
	音響機器	5,301	0.3	71.79	41	2.19
	計測器・計器類	22,306	1.2	23.17	7,495	3.47
化学品	化学工業品	95,711	5.0	14.54	31,382	-0.08
	医薬品・医薬用品	4,957	0.3	2.73	1,446	-1.20
	プラスチック・ゴム & 同製品	83,798	4.4	27.55	24,610	1.47
	卑金属品	103,600	5.5	22.22	28,335	0.69
	鉄鋼	63,298	3.3	23.69	18,491	-0.12
	鉄鋼一次製品	36,677	1.9	23.04	11,213	-1.14
	鉱物性燃料等	64,629	3.4	9.54	25,889	-0.85
	原油	12,133	0.6	3.28	4,074	-0.75
	油脂その他の動植物生産品	12,496	0.7	20.91	2,884	-0.57
	食料品(動植物生産品)	51,246	2.7	10.41	9,329	0.00
	穀物	4,530	0.2	12.77	1,313	2.93
	加工食品	24,101	1.3	11.05	5,940	0.40
	雑製品	88,917	4.7	36.54	12,940	-1.40
	繊維品	162,606	8.6	38.44	29,486	0.93
	合成繊維・同織物	26,579	1.4	48.12	839	-0.21
	衣類	85,212	4.5	37.60	17,630	0.99
	ニット製	40,845	2.2	38.92	8,878	0.50
	非ニット製	44,367	2.3	36.45	8,752	1.33

別表2 東アジアの輸入額と世界貿易に占める割合

		2003年輸入〔100万ドル、%〕			東アジア貿易の変化	
		東アジア (合計)	品目別 構成比	世界貿易に占 めるシェア	増減額 (99-03)	シェアの変化 (%ポイント)
総額		1,521,579	100.0	20.87	468,176	1.92
輸 送 機 器	機械機器	721,292	47.4	22.19	248,634	3.99
	一般機械	218,395	14.4	20.81	68,434	3.38
	コンピュータ機器	96,934	6.4	26.71	30,068	5.47
	同 製品・周辺機器	44,910	3.0	21.24	11,607	3.05
	同 部品・付属品	52,023	3.4	34.35	18,461	8.88
	電気機器	371,685	24.4	36.50	133,194	7.21
	電子部品(半導体等を含む)	189,512	12.5	64.98	70,985	16.40
	半導体・電子管	28,239	1.9	53.65	6,059	7.54
	集積回路	161,273	10.6	67.47	64,926	18.28
	その他の電気・電子部品	79,550	5.2	36.26	29,272	6.80
	輸送機器	58,001	3.8	6.25	17,376	0.67
	乗用車	16,677	1.1	4.23	7,121	1.00
	自動車部品	17,056	1.1	8.65	9,806	3.98
	精密機器	73,211	4.8	28.64	29,630	6.19
I T 関 連	IT 関連機器	439,778	28.9	36.10	154,019	7.45
	IT 関連製品(最終財)	118,692	7.8	21.36	35,301	2.87
	IT 関連製品(部分品・付属品)	321,086	21.1	48.47	118,718	11.43
	事務用機器	3,128	0.2	22.08	204	6.12
	通信機器	26,834	1.8	18.58	7,393	2.05
	映像機器	15,408	1.0	18.79	7,039	1.79
	音響機器	1,972	0.1	26.70	620	8.82
	計測器・計器類	26,440	1.7	27.47	8,438	3.52
	化学品	165,155	10.9	17.16	50,688	0.00
	化学工業品	106,698	7.0	16.21	32,770	-0.59
	医薬品・医薬用品	10,270	0.7	5.66	3,362	-2.07
	プラスチック・ゴム & 同製品	58,456	3.8	19.22	17,918	1.36
	単金属品	103,624	6.8	22.23	34,992	2.59
	鉄鋼	60,433	4.0	22.62	23,927	3.22
	鉄鋼一次製品	46,787	3.1	29.39	21,108	5.00
	鉱物性燃料等	190,167	12.5	28.08	84,616	-0.24
	原油	109,554	7.2	29.62	51,824	0.75
	油脂その他の動植物生産品	16,489	1.1	27.59	5,954	4.05
	食料品(動植物生産品)	80,868	5.3	16.43	6,165	-2.12
	穀物	9,113	0.6	25.70	-41	-2.30
	加工食品	29,255	1.9	13.41	4,024	-1.38
	雑製品	35,453	2.3	14.57	3,538	-1.37
	繊維品	80,637	5.3	19.06	9,769	-0.91
	合成繊維・同織物	13,392	0.9	24.24	-195	-1.27
	衣類	36,158	2.4	15.95	5,462	-0.67
	ニット製	17,452	1.1	16.63	2,879	-0.88
	非ニット製	18,706	1.2	15.37	2,583	-0.53

別表 3 世界貿易に占める東アジア域内貿易の割合

		2003 年			東アジア域内貿易の変化	
		東アジア (域内)	品目別 構成比	世界貿易に 占める比率	増減額 (99-03)	比率の変化 (%ポイント)
総額		940,068	100.0	12.89	328,220	1.89
輸 送 機 器	機械機器	536,365	57.1	16.50	218,534	4.26
	一般機械	162,400	17.3	15.47	66,528	4.33
	コンピュータ機器	92,131	9.8	25.39	40,735	9.06
	同 製品・周辺機器	39,656	4.2	18.75	20,131	8.09
	同 部品・付属品	52,475	5.6	34.65	20,604	10.46
	電気機器	298,898	31.8	29.36	118,333	7.18
	電子部品(半導体等を含む)	144,419	15.4	49.52	54,358	12.60
	半導体・電子管	26,573	2.8	50.48	4,586	4.77
	集積回路	117,846	12.5	49.30	49,772	14.55
	その他の電気・電子部品	76,695	8.2	34.96	31,753	8.62
	輸送機器	31,161	3.3	3.36	14,971	1.14
	乗用車	7,463	0.8	1.89	5,015	1.07
	自動車部品	11,314	1.2	5.74	6,251	2.48
	精密機器	43,906	4.7	17.18	18,702	4.19
I T 関 連	IT 関連機器	363,545	38.7	29.84	150,985	8.53
	IT 関連製品(最終財)	89,956	9.6	16.19	44,270	6.06
	IT 関連製品(部分品・付属品)	273,589	29.1	41.30	106,715	10.76
	事務用機器	3,266	0.3	23.05	784	9.50
	通信機器	19,127	2.0	13.25	11,078	6.40
	映像機器	14,511	1.5	17.69	6,517	1.46
	音響機器	1,431	0.2	19.38	245	3.68
	計測器・計器類	11,965	1.3	12.43	5,517	3.85
	化学品	98,897	10.5	10.28	33,329	0.45
	化学工業品	52,952	5.6	8.05	18,119	0.13
	医薬品・医薬用品	1,544	0.2	0.85	219	-0.63
	プラスチック・ゴム & 同製品	45,946	4.9	15.11	15,210	1.56
	卑金属品	62,646	6.7	13.44	20,138	1.28
	鉄鋼	38,993	4.1	14.60	13,907	1.26
	鉄鋼一次製品	29,323	3.1	18.42	11,137	1.15
	鉱物性燃料等	50,271	5.3	7.42	19,858	-0.74
	原油	8,947	1.0	2.42	3,205	-0.45
	油脂その他の動植物生産品	4,460	0.5	7.46	1,048	-0.16
	食料品(動植物生産品)	29,996	3.2	6.09	4,418	-0.26
	穀物	2,528	0.3	7.13	1,019	2.51
	加工食品	13,173	1.4	6.04	3,018	0.08
	雑製品	21,105	2.2	8.67	4,114	0.19
	繊維品	73,145	7.8	17.29	10,439	-0.38
	合成繊維・同織物	13,613	1.4	24.64	-999	-2.79
	衣類	31,487	3.4	13.89	7,119	0.69